

一 般 演 題 抄 録

7. 高度腎機能障害を有した患者に対する冠動脈造影の工夫

中野 学 清島 尚 高井博之 宮村有紀子 生田新一郎 谷口 貢
林 孝浩 石川 欽司

近畿大学医学部内科学教室（循環器内科部門）

背景 冠動脈造影法は虚血性心疾患の診断，治療方針の決定に必要な不可欠なイメージング法として広く臨床に用いられている。しかし，腎機能障害患者では，検査に使用する造影剤による腎機能悪化が問題となる。今回，我々は高度腎機能低下症例に対し，冠動脈造影検査時の工夫から腎機能低下を抑制し得た症例を経験したので報告する。

症例 78歳男性，平成16年春，労作時胸痛をみとめ，夏頃より労作時の胸痛の頻度が増えてきたため当院当科受診し不安定狭心症の診断で入院となった。

入院時現症，及び検査所見 BUN，Cr の上昇と CPK の軽度上昇を認めた。ECG 上 5 分歩行で V 3～4 で ST の低下と胸部不快感を認めた。

経過 入院後，冠動脈造影を施行した。腎保護の目的で前日の朝から N-アセチルシステイン（ムコフィリン）を 1200 mg/日を 2 日内服した。また，冠動脈造影剤として Gd-DTPA（マグネビスト）を併用した。そして冠動脈造影検査終了後，約 2 時間の血

液透析を行った。

考察 N-アセチルシステインは本来去痰剤として使用されるが，近年，造影剤使用時の腎保護作用が注目され沢山の報告がされている。

Gd-DTPA はヨード造影剤に比べ透析除去率が高く，使用料によっては急性腎不全の発現率は低いとされている。

しかし，造影性は低く，本性例のごとく病変部の詳細な形態や狭窄度の判定は少量のヨード造影剤を併用することで可能であった。しかし，使用したヨード造影剤は通常の冠動脈造影検査に使用する量の 20%以下の量で終了することが出来た。

結語 高度腎機能障害患者に対し冠動脈造影検査時に N-アセチルシステインの前投与および血管造影剤として Gd-DTPA を併用することでヨード造影剤の使用を最小限に抑え腎機能悪化を回避し得た症例を経験したので報告する。

8. 幹細胞移植により尋常性乾癬と併せて寛解像を得た多発性骨髄腫の 1 例

嶋津秀紀 辰巳陽一 中本吉彦 佐野徹明 渡辺克哉 森田泰慶
宮武淳一 松田光弘 芦田隆司 前田裕弘 金丸昭久

近畿大学医学部内科学教室（血液・腎臓・膠原病内科部門）

患者は 63 歳男性，主訴は腰痛，既往歴として 30 歳代から尋常性乾癬を指摘されていた。平成 15 年 5 月から腰背部痛，歩行困難認め，近医にて MRI 上腰椎の骨破壊像を，血液検査では汎血球減少を伴っていたため，名古屋大学附属病院を受診。骨髄所見，抗体産生抑制，ベンスジョーンズ蛋白の陰性から非分泌型多発性骨髄腫と診断され自宅の関係で当院紹介となった。骨髄所見，骨所見および濃縮尿免疫固定法での Bence-Jones 蛋白陽性から B-J type myeloma Stage3 と確定診断した。初診検査上，NSAID 腎症由来保存期腎不全像を呈しており他院処方除痛目的の NSAID を中止し経口モルヒネを使用の上，MP 療法を施行し腎機能の改善を認めた。

年齢，全身状態が良好であったため当初より幹細胞移植を考慮し VAD 療法施行後自己幹細胞移植，同種幹細胞移植施行目的で入院となった。

近年，高齢患者多発性骨髄腫治療において，これまで使用されてきた MP 療法，VAD 療法，LSG-15 療法などの単独治療と比較して，自己または同種幹細胞移植を伴った大量化学療法はその予後を改善するという報告がなされており，われわれは本症例の背景を考慮し当初から末梢血幹細胞移植を施行する

ことを念頭に治療計画を作成した。

初診時骨髄穿刺検査において myeloma cell を 76.8% 認め間歇 MP 療法を 1 クール行った後，VAD 療法を計 5 クール行い，末梢血幹細胞採取を施行，平成 16 年 5 月 11 日に自己末梢血幹細胞移植を施行した。前処置は MEL200 プルトコールで行い，day9 に骨髄像の回復を認めた。同年 7 月 24 日には実弟から採取した末梢血幹細胞を用い，フルダラビン＋L-PAM を前処置として骨髄非破壊的末梢血幹細胞移植を施行。同年 8 月 14 日には骨髄像の回復を認めた。患者は約 10 年前から尋常性乾癬の既往があり，移植前肉眼的には，全身に認めていた円盤状皮疹が同種幹細胞移植後にほぼ消失し，病理組織でも移植前には典型的な乾癬像を呈していたものが，移植後は著明な改善を示した。自己および同種幹細胞移植は高齢者でもその生存率が延長することが期待されており本症例も高齢ながら大きな合併症もなく寛解像を得た。同時に自己免疫疾患と考えられる尋常性乾癬の寛解も認めたことから，本疾患以外の自己免疫疾患の治療においても同種骨髄非破壊的末梢血幹細胞移植は有効であることが示唆された。